



ふりがな 氏名	さとう しゅんすけ	都 道 府 県	東京都	
	佐藤 駿介			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・晃華学園中学校高等学校 / 教諭 ・一般社団法人 ESD Tokyo / 代表理事 			
関心・活動の SDGs	 			
私のESD活動	学校での SDGs の授業および課外自主活動のサポートと、SDGs に意欲がある生徒を集めた勉強会・発表会の開催			

活動の概要

私は中学生の公民の授業に SDGs の項目を追加し、模擬国連活動や国連壁新聞の制作を通じ、生徒の SDGs に関する関心を高めてきた。昨年度は、授業で作成した映像作品が SDGs クリエイティブ・アワードで JICA 特別賞を受賞した。また、SDGs に関する生徒の自主的な活動を積極的にサポートしている。具体的には生徒自身が持つ問題意識に合わせた課題設定、実際の課題解決に向けた活動の援助を行っている。年間十数件のプロジェクトの管理・運営を行っており、管理職に掛け合った結果として部署の設置と予算の獲得を実現した。プロジェクトの例としては、国際 NGO と協働したハンディポッド・プロジェクト、インド舞踊団と協働した SDGs × Dance などが挙げられる。

また、SDGs に取り組む生徒を、学校を越えて支援するべく、SDGs 文化祭を企画・運営している。現在、中高生は SDGs に取り組みたくても学校に支援体制が無い、または協働する仲間を見つけられない、という悩みを抱えている。そこで関東 ESD センターや他校の教員と協働し、SDGs に取り組みたい中高生を集め、大学生をメンターにして、SDGs に関するプロジェクトの企画・実践・発表の場を与えるという活動を行っている。

上記のような取り組みは、生徒と外部団体の協働を複数に渡って実践している点、また学校を越えた実践を行っている、という2点においてイノベティブである。

- ・晃華学園中学校高等学校 HP「国際理解教育」 <https://jhs.kokagakuen.ac.jp/education/international/>
- ・SDGs 文化祭 https://kanto.esdcenter.jp/sdgs_culture-fes2019-01/

私が考える教育の未来像

私はこれからの教育において重要視されるのは、「問いを立てる力」だと考える。これまでの日本では「正解を素早く導く力」が重視されてきた。しかし近年は論点も増え、科学技術の変化も激しく、何が課題となっているかが見えにくい状況にある。実際、日本に貧困があることを知らない生徒も多い。そして、「正解を素早く導く力」を中心に生徒を育ててきた結果、与えられたことをクリアさえすればよいという価値観が支配的になっている。

SDGs は、社会課題を考える際の目次のようなものである。SDGs についての教育を行うことは、問いを立てる力を育み、高い倫理観を持ったリーダーを育成していくための有効な方策であると考えている。

私の強み、活かせる経験やスキル

私はかつて広告制作会社に務めていた。その前職で培ったフレームワークや視点が、現在行っている様々なプロジェクトの企画立案・運営に生きている。この前職での経験、またその経験を踏まえた現職での経験・実践例は、通常の教育者とは違った視点を提供できる。特に学校管理職に SDGs の推進を認可してもらうまでの経緯は、多くの関係者に伝えていきたい。また先述の SDGs 文化祭を実行する際に、その実施主体として一般社団法人を立ち上げた。学校での実践と、副業での実践を同時並行で行っているという経験は、参考にしてもらえる部分が多いだろう。

私はこうした経験を生かし、他の参加者に大きな刺激を与えることができると考えている。